

# 幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

4月のスタート。横浜市の公立保育園では小学校の入学式のようなセレモニーを行わず、4月1日を「入園・進級を祝う日」としてそこからの数日間に、保育園に慣れるよう「短縮保育」を実施しているところが多くあります。

この春、小学校の入学式の工夫を聞き、「誰のための入園式か？」と考えた園がありました。迷いながらの挑戦でしたが、4月2日に子どもたちが大喜びで保育室に飛び込んでいく姿に、保育士一同が驚いたそうです！



今回知った小学校の入学式の「仕掛け」は、子どもたちが翌日学校に行くのが楽しみになりますね。

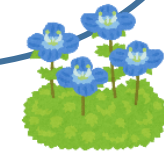
改めて「誰のための入園式か」を考えると、子どもを真ん中に置いて見直すことが大事かも。



これまで4月1日からの保育は、「慣れるためにそっと見守る」時期だと思っていましたが、「慣れるだけ」の保育ではもったいないかもしれないですね。



わたしたちも、「明日も行きたくなる保育園に」ということをテーマに、行くのが楽しみになる仕掛けを考えてみませんか？



前号で紹介した永田台小学校に隣接し、春休みには一緒にスタートカリキュラム研修を行った横浜市永田保育園では、このような話し合いが行われました。そして、「明日も行くのが楽しみになる仕掛け」という環境設定を皆で考え、早速実施しました。

3歳のし・か・け「大好きな虫をさがそう！」  
★虫の写真を壁に貼り、園庭や散歩先で見付けたら、シールを貼っていくしかけ



「この虫知ってる！」と翌日早速園庭に飛び出し、どんどん見付けてはシールを貼っていきます。見付けた虫は本で調べています。

4歳のし・か・け「だ～れだ!？」  
★モニタージュ風の顔写真。毎日めくっていくと写真が増えて、完成する！

子どもたちが「今日は誰だろう?」「新しい先生だ!」と、楽しみにしながら保育室に入ってきています。



5歳のし・か・け「みかん、どうする？」  
★4月1日に「明日からどんな遊びをしたい？」と会議を開催し、「みかん食べたい」に決定！



皮は使える? 種を植えたい! みかんからやりたいことが次々と生まれる「みかん会議」が毎日続きます。